

# 取組方針

本県においては、急峻な地形や脆弱な地質のため、自然災害が発生し易かつ整備に多額の経費が必要となることに加え、海岸線が長いこともあり、対策の必要な浸水被害箇所や土砂災害危険箇所等が数多く残っているため、道路や下水道など、総じて社会資本整備が遅れていることから、今後とも積極的に取り組んでいく必要があります。

しかしながら、国や県の財政状況が悪化により、平成21年度当初予算の土木部の投資的経費は、ピークである平成7年度の約24%までに落ち込むなど、非常に厳しい状況となっています。

このため、より効果的・効率的な取り組みを進めていく必要があるとともに、さらに、住民の主体的で積極的な参加による住民主導の地域づくりやまちづくり、環境への負荷が少なく持続的発展が可能な循環型社会の確立を進めていく必要があり、次の取組方針のもと事業を進めていきます。

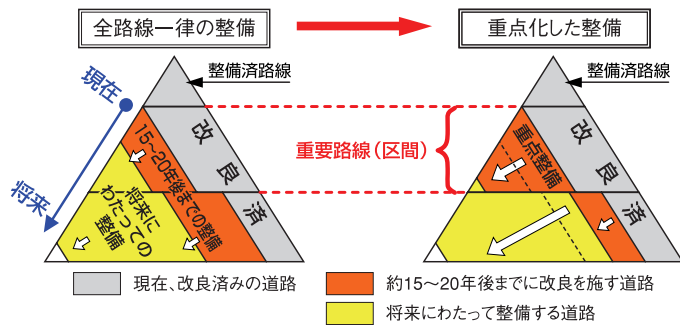
## 重点化

限られた予算で、最大の効果をより早く出すため、効果のより大きな箇所、緊急性の高い箇所等に絞り込み、箇所の厳選・重点化に取り組めます。

### ●最適最小ネットワークによる優先整備(道路・街路)

「県道60・圏域内30アクセスプラン関連道路」、「緊急輸送道路」、「市町村合併支援道路」の3つ視点で180路線を選定し、重点的に整備します。

#### ●路線の重点化による整備のイメージ



## コスト削減

国の「公共工事コスト削減対策に関する新行動計画」に沿った対策を継続し、事業のスピードアップ、設計・調達の最適化、制度や規格の見直し、ライフサイクルコストの検討等、様々な施策を展開します。

### ●建設発生土の利用促進

砂防えん堤において、現地発生土をセメントで改良し、えん堤の中詰材として再利用(INSEM-DW)することにより、残土運搬コストの削減など工事コストの削減と環境負荷の低減を図ります。



サルガタケ川(鬼北町)

## 事業間の連携

各事業間はもとより、他所管事業との連携も進め、より効果的で効率的な整備を進めます。

### ●効率的・一体的な整備

今治新都市開発と連携した一般県道今治丹原線の整備及び浅川の改修など事業間で連携して、効率的・一体的な整備を推進します。

一般県道今治丹原線



今治新都市との連携(今治市)

## 県民との連携・協働

県民が誇りと愛着を持てる地域社会づくりを進めるためには、県民の参加と合意が不可欠であり、必要な情報等の提供に努める他、県民が社会活動へ参加し易い環境づくりを進めます。

### ●公共土木施設愛護事業(愛リバー・愛ビーチ・愛ロード制度)

県が管理する河川・海岸・道路の清掃美化活動を自発的に行うボランティア団体等に対し、作業用具の貸与、ゴミ運搬車両の借り上げ等の支援を行い、県民と行政とのパートナーシップを基本に美しい地域環境を創り出していきます。



地元住民による長浜港海岸(大洲市)の清掃活動

## 環境との共生

自然環境の保全やリサイクルの推進に取り組むとともに、森林の保全のための公共事業への間伐材の積極的利用を進める等、自然環境や県民にやさしい施策を展開します。

### ●間伐材の利用促進

景観や環境保全上、木材の使用が望ましい箇所や工用看板や現場立入防護柵等、強度や耐久性の問題が比較的少ない箇所において間伐材の積極的な利用を図ります。

寒川海岸(四国中央市)

